

彩り復活より身近に

河北新報が収蔵する戦時中の白

黒写真をカラー化するプロジェクト

に取り組む宮城学院女子大(仙

台市青葉区)の学生が26日、同大

で彩色の仕上げ作業を施した。指

導に当たっている東京大大学院の

渡辺英徳教授(情報デザイン)ら

の最終確認を経て写真9枚を完成

させ、3月にも紙面とオンライン

で公開する。

作業には、プロジェクトに参画

する学生のうち9人が参加した。

人工知能(AI)を用いたアプリ

で自動彩色し、手直した写真に

ついて、渡辺教授は「画像全体の

色合いを変えれば、現実に近い印



彩色した画像を基に、学生に技術指導をする渡辺教授(中央)

河北新報収蔵 戦中の白黒写真カラー化 宮城学院女子大生 仕上げ作業

戦後
80年

象になる」と助言。学生たちは、より自然に見えるように画像全体のトーンや服、空などの色を調整した。

日本文学科2年伊藤あいさん(20)「仙台市青葉区」は、仙台市内で戦災者に農産物が配られた1946年の写真を担当した。計5時間ほど作業に当たったといい、「自分なりに服の色などを調べて、うまく仕上げられた。カラー化を通じ昔の写真に親近感を持てるようになった」と語った。

渡辺教授は「8割ぐらいが仕上がった。学生自身で課題を解決しようという姿勢があり、かなり手応えを感じる」と述べた。

プロジェクトは昨年10月に始まり、仙台空襲を捉えた1枚を先行してカラー化した。学生たちは今年1月21日に渡辺教授の技術指導を受け、彩色に挑んだ。戦災経験者や歴史研究者による色彩監修も受け、作業を進める。